

『令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 令和7年4月17日（木）

対象学年 第6学年実施人数：99名

【総合結果】

《結果》平均正答率	国語	算数	理科
本校	10.2 / 14	10.8 / 16	10.5 / 17
東京都	9.8 / 14	10.2 / 16	10.1 / 17
全国	9.4 / 14	9.3 / 16	9.7 / 17

【教科ごとの分析】

国語

	全体	知識 及び 技能			思考力、判断力、表現力等		
		(1)	(2)	(3)	話す・聞く	書く	読む
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化 に関する事項			
本校	73	74.7	65.7	82.8	80.1	74.1	63.9
東京都	70	77.9	66.9	83.8	69.9	72.4	61.0
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5

結果

- 「思考力、判断力、表現力等」では、すべての項目で全国、東京都いずれも平均を上回る、もしくは平均とほぼ同じであった。
- 知識及び技能では、すべての項目において東京都の平均正答率よりわずかに低かった。全国と比べたところ、(1)の項目のみ本校の平均正答率が下回ったが、(2)(3)については上回っていた。
(1)の項目は、いわゆる漢字を正しく書けるかどうか、という項目である。
- 「話す・聞く」については、平均正答率が東京都よりも10ポイント以上高かった。
- 「読むこと」については、全国、東京都いずれの平均を上回っているが、他の項目と比べて点数が低い。

改善策

「知識 及び 技能」

- ・授業の中で、文字を書く時間を増やす。教師がノートとタブレットの使い分けを意識することを通して、ノートに文字を書くときには、学習した漢字を日常的に使用するように指導する。国語という教科だけでなく、全教科に通じる項目として意識をもち、指導にあたる。

「思考力、判断力、表現力等」

- ・「読むこと」のなかでも、「目的に応じて文章と図表などを結び付ける」などして、必要な情報を読み取れることを重点的に指導する。具体的には、単元の中で出てきた図表を見る視点を全体で共有したり、結びつく文章と関係する図表の情報を線で結ぶなどの見える化を図り、理解を図る。
- ・朝読書の他、読書科の時間を有効に使い、じっくりと活字に親しめる時間を確保する。
- ・定期的によむ YOMU ワークシートを実施・活用をして、様々な問題に触れることを通して、問題を解く視点を養わせる。

算数

	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
本校	68	72.1	68.7	67.2	64.3	69.9
東京都	64	68.3	61.2	60.5	64.9	67.6
全国	58	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6

	本校	東京都	全国
全体			
数と計算			
図形			
測定			

結果

- 「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」においては、全国、東京都いずれも平均を上回った。
- 「変化と関係」は東京都の平均正答率をわずかに下回った。
特に、「10%増量」といった割合が関係した、変化のある問題を苦手としている。

改善策

- 変化の指標となる基準量の把握のために、場面理解を重点的に指導する。具体的には、2本の数直線を活用しながら基準量、比較量と割合の関係を整理し、正しく立式できるよう指導していく。
- 毎週水曜日のパワーアップモーニングと毎学期1週間取り組んでいる江戸川っ子 study week において、東京ベーシックドリルの診断テストの結果を基に、ドリルパークを活用して既習事項の定着に取り組む。
- 少人数指導や朝学習、放課後補習教室など、基礎基本を定着させる指導を継続するとともに、活用する能力を身に付けさせるために学習活動や教材の工夫を行っていく。
- 中学の数学にスムーズに入れるように、小学校で学んだ基本的な四則計算の反復練習を徹底する。その際、整数だけでなく小数や分数の四則計算などについても、確実な定着を図る。

理科

	全体	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
本校	62	48.0	56.6	55.6	72.9
東京都	60	49.9	53.7	54.1	69.1
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7

結果

- 「粒子」「生命」「地球」においては、全国、東京都いずれも平均を上回った。
- 「エネルギー」においては、平均正答率が東京都よりも1.1ポイント低かった。
特に電気を通すものや磁石につくものの知識についての設問はポイントが低く、東京都が12.8ポイント、全国10.6ポイントのところ、本校は6.1という結果であった。

改善策

- 問題を立てる際に、子供たちの身近な場面から問題作りを行い、必要感を高める。自分事として捉えることを通して、理解を深めるよう指導する。
- 得られた実験結果と考察・結論を結び付けるよう指導する。
授業の中で実験の過程や結果を根拠として、考察や結論を書くよう指導を徹底する。
- 知識を定着させるために練習問題に取り組む。
単元の学習内容を終えたら、教科書やドリルパークの理科を活用して問題を解き、様々な出題のパターンを経験させる。